

8/11 サッカーを通して地元に恩返し FC今治の布山達朗さん（愛南町出身）によるサッカー教室

FC今治のホームグロウンコーチを務める愛南町出身の布山達朗さんがプロの現場で得た知見を伝え、地元に貢献したいとの思いから南宇和サッカー協会が協力し、あけぼのグラウンドで小学生を対象としたサッカー教室が開催されました。

FC今治のコーチら3人とレディースの橋高海音選手が参加し、町内のサッカーチームに所属する児童71人にパスやドリブルなどの基礎を指導しました。

その後、FC今治コーチらが参加する大人のチームと小学生のチームで試合が行われ、児童は普段の練習では学べないプロの指導法を体感しました。

参加した平城SCの田中颯馬さん（平城小4年）は、「いつもと違う練習ができて楽しかった」と話しました。練習の最後に布山さんは、「もっと練習して、大人に勝てるくらい強くなってください」と呼び掛け、参加した子どもたち全員にFC今治のチームグッズを配りました。



▲子どもたちに指導をする布山達朗さん



▲サッカー教室を開催したFC今治の皆さん

8/18 町内の学校や保育所などでの新型コロナウイルス感染拡大防止のために おれんじ薬局から手指消毒用アルコールの寄付を受けました

学校や保育所などでの新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的に、おれんじ薬局（城辺甲）の松本典昭代表から、町内のすべての小・中学校、高校、保育所および幼稚園に手指消毒用アルコールの寄付を受けました。

この取り組みは、町内の複数の学校で学校薬剤師を務めている松本さんが、教育や保育などの現場で消毒液の量を気にすることなく感染予防に努めてもらいたいとの思いで実施したものです。8月18日（火）には役場本庁1階町民サロンで、松本さんから中村維伯教育長に対して、南宇和高校分を除く27施設分の消毒液が手渡されました。

今回の寄付に関して松本さんは、「子どもたちに手洗い、うがい、手指消毒の習慣を身に付けてもらい、自分自身の行動で感染予防に努めてほしい」と話しました。



▲消毒液の寄付を行った松本典昭代表（左）と寄付物品を受け取る中村維伯教育長

寄付を受けた施設	施設数
幼稚園・保育所 （私立2カ所を含む）	10カ所
町内小学校	12校
町内中学校	5校
南宇和高校	



◀ 寄付を受けた手指消毒用アルコール。1本あたり500ミリリットル入りで1施設につき20本（南宇和高校へは40本）が寄付されました。



愛媛CATV
動画

8/26 町内の道路沿いの清掃活動を行い、道路美化に努めてきたことが評価されて 愛媛県建設業協会南宇和支部が国土交通大臣表彰を受賞

表彰

8月3日付けで一般社団法人愛媛県建設業協会南宇和支部(羽田保恵支部長)が、国土交通大臣表彰(道路の美化)を受賞しました。

建設業協会南宇和支部はこれまで、旧西海有料道路入り口付近から船越地区に至るまでの道路沿い(県道平城高茂岬線)において、雑草除去やごみ拾いなどの清掃活動を行ってきました。

今回の受賞について羽田支部長は、「今までやってきたことが認められて、県や町のおかげで受賞することができた。これからも関係機関のご指導とご支援を賜りながら地域貢献を続けていきたい」と話しました。



▲愛南土木事務所の高橋洋八郎所長(右)から感謝状を受ける羽田保恵支部長(左)と上埜一男支部事務局長(中央)

8/28 国道56号線沿いの花壇管理により、道路美化への取り組みが評価されて 町内の2つの団体が国土交通大臣表彰を受賞



愛媛CATV
動画



▲国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所の秋山慎吾所長から感謝状を受ける石河則幸会長

増田で活動している壮年グループの若宮会が「「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰」を、御荘平山で活動をしている南宇和福祉リサイクル活動が「令和2年度道路ふれあい月間国土交通大臣表彰」を国土交通省から受賞しました。

今回受賞された若宮会と南宇和福祉リサイクル活動は、ボランティア・サポート・プログラム「オレンジロード」を通じて国道56号線沿いの花壇管理を行っています。

受賞について若宮会の石河則幸会長は、「賞を頂けてうれしい。これからも、道路美化が維持できるようにがんばりたい」と話しました。

9/7 森林土木工事の技術や品質が評価されて 町内の2つの建設業者が県森林土木協会表彰を受賞

8月25日付けで株式会社砂田建設(緑丙)と株式会社羽田建設(増田)が、愛媛県森林土木協会表彰を受賞しました。

砂田建設は、令和元年度に県発注で実施した僧都の鹿鳴地区における森林の土砂崩れ等を防止するための谷止工が優秀な工事であると認められ、優秀治山工事表彰を受賞しました。また、羽田建設は、平成29年度から令和元年度にかけて町発注で実施した林道太田八人組線の開設工事が優秀な工事であると認められ、優秀林道工事表彰を受賞しました。

【優秀治山工事】

受賞者：株式会社砂田建設(代表取締役 砂田 優二)

工事名：(交)林第8号林地荒廃防止工事 箇所名：南宇和郡愛南町僧都(鹿鳴地区)

【優秀林道工事】

受賞者：株式会社羽田建設(代表取締役 羽田 保恵)

工事名：太田八人組線林道開設工事 箇所名：南宇和郡愛南町正木



▲感謝状を受け取った羽田建設の羽田保恵代表取締役(左)と砂田建設の砂田優二代表取締役

8/28 手作りの防護服を感染症対策に役立てて 愛南町連合婦人会一本松支部が感染症対策のための防護服を製作

老人ホームでの感染症対策に役立ててもらおうと、愛南町連合婦人会一本松支部の会員12人が、一本松山村開発センターでポリ袋を材料にした防護服の製作を行いました。

この取り組みは、特別養護老人ホーム一本松荘(中川)の職員が感染症対策のための防護服を自作しているという話を聞いた婦人会が、自分たちにも協力できるのではないかという思いで始めたものです。

婦人会一本松支部の会員は7月末から防護服の製作を開始し、この日までに約140枚の防護服を完成させました。6回目の製作となったこの日も、会員は慣れた手つきで手際良くポリ袋を切り分け、それらをテープでつなぎ合わせて防護服を作り上げていきました。

田村早苗^{さなほ}一本松支部会長は、「施設の方が仕事をしながら防護服を作るのはとても大変なこと。新型コロナウイルスの影響で婦人会としての活動ができない中で、こういった活動で貢献しようということになった。防護服は施設での感染症対策に役立ててほしい」と話しました。



▲ポリ袋を切り分けて感染症対策のための防護服を作る婦人会一本松支部の会員



▲手作りした防護服



愛媛CATV
動画

9/1 「お田植え祭り」は中止でも収穫はみんなで協力して 柏小学校児童が金峯神社下の田んぼで稲刈り

柏小学校の5・6年生10人が、柏の金峯神社下の田んぼでもち米の稲刈りを行いました。

この田んぼでは毎年5月上旬、豊作や地区の安全を祈願して早乙女姿の女子児童が稲を植える「お田植え祭り」(柏地区自治会主催)が行われていますが、今年は全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

小学校の総合学習の時間を活用して実施された今回の稲刈りでは、児童は柏地区自治会の会員から稲の刈り方を教わり、鎌を手に手際良く刈り取り作業を進めました。

天候はあいにくの曇り空で、終盤には強い雨にも見舞われましたが、稲刈りを終えた児童は充実感のある表情を見せ、集まった地域の方々に対して一人ずつお礼の言葉を述べました。

稲刈りをしたのは小学4年生の時以来2回目という6年生の赤樫倉^{せう}さんは、「前よりもうまくできてたくさんの量を刈ることができた。楽しかった」と感想を述べました。



▲金峯神社下の田んぼで手際良く稲刈りを行う柏小学校の児童



▲柏地区自治会の会員(地域住民)も数多く参加して稲刈りに協力しました

9/4

空き家管理で高齢者の就労機会拡大へ

地域の空き家問題の解決と高齢者の働く機会を拡大することを目的として、御荘老人福祉センターで、「空き家管理知識習得講座」（愛南町シルバー人材センター・愛媛県生涯現役促進地域連携事業推進協議会共催）が開催され、町シルバー人材センターの会員ら21人が参加しました。

講習会では、愛媛県内の空き家状況や、建物や庭の状態を確認する調査方法や維持管理するための清掃の仕方などについて学びました。



▲空き家の管理や実情について説明する協議会の菊地久男さん

9/4

水をきれいにするしくみを理解する学習会

平城小学校で、5年生を対象とした「令和2年度環境学習会」（愛媛県浄化槽協会主催）が開かれました。

学習会では、暮らしと水の関わりや汚れた水の処理の仕方などについて学んだ後、水をきれいにする微生物の観察や汚れた水をろ過装置で浄化する実験が行われました。

参加した倉田楓翔（ふうか）さんは、「水がきれいになるしくみを知って驚いた。汚い水を川や海に出さないようにしたい」と感想を述べました。



▲ろ過装置で汚れた水をきれいにする実験を行う児童

9/11

児童も生徒も全力で競技をした 令和2年度一本松小中学校合同運動会

一本松小学校グラウンドで「令和2年度一本松小中学校合同運動会」が開かれ、一本松小学校児童は紅白に分かれて、一本松中学校生徒は紅青に分かれて各種目で競いました。また、中学校のチームは、紅組が優れた人の集まりを意味する鸞翔（らんしょう）をチーム名に、青組は宝石のように輝くを意味する玲瓏（れいろう）をチーム名にしています。

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により午前中のみで開催となりましたが、「乱れ咲け我ら一本松の大輪の花」をスローガンに掲げ、児童と生徒は全力で競技し、応援席からは歓声が上がっていました。大会の最後に一本松中3年生の岡原未旺（みお）さんは、「新型コロナウイルスの影響は続くと思いますが、私たちはチーム一本松です。地域一丸となって、苦難を乗り越えていきましょう」とあいさつし、運動会を締めくくりました。

150メートル走に参加した一本松小6年生の宮脇世理（せり）さんは、「走りは苦手だったけど、チームのためにがんばれて良かった」と話しました。



▲地区に分かれて競った地区別対抗リレー



▲チームの勝利を願って気迫のこもった応援をする中学生